

# [江別市] 施策達成度報告書

**政策** 04 安全で快適な都市生活の充実

**施策** 02 交通環境の充実

主管課 都市計画課

## 施策の環境変化と課題

施策の環境変化 (23年度)	施策の課題 (23年度)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・道央都市圏における望ましい交通体系の姿を示した都市交通マスタープランが策定され、だれもが安全、安心して暮らせる利便性の高い交通環境や、環境にやさしく都市を支える交通環境など、計画実現に向けた取り組みが求められています。</li> <li>・道路整備や道路の環境整備は、人口減少や高齢化の進行などによる社会経済環境の変化などから、財源的に厳しい状況におかれています。</li> <li>・地球温暖化防止など環境負荷の低減に向け、交通が渋滞することにより排出される排気ガスを抑えるため、道路交通の円滑化など環境にやさしい交通環境の構築が求められています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少や高齢化社会への移行に伴い、都市の中心に人も施設も各種機能も集まったコンパクトな都市づくりが求められており、交通体系についても市内アクセスの向上など都市機能を高める検討が必要となっています。</li> <li>・高齢者等の交通弱者の交通利便性を向上させることが課題となっています。</li> <li>・冬期の交通環境を充実させるために、市民、事業者との協働による取り組みが必要となっています。</li> </ul>

## 施策の目的

交通環境を充実させることにより、市内・市外の移動を円滑にし、市民の安全性・利便性・快適性を高めます。

## 対象 (誰を対象とした指標か)

市民及び道路利用者

## 意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

円滑な移動を可能にし、市民の安全性・利便性・快適性を高める。

## 施策の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

施策の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	後期目標値
市内の移動に困らない市民割合	%	79.6	80.9	-	77.8	↗
市外への移動に困らない市民割合	%	79.0	81.0	-	77.2	↗

## 施策の達成状況 (23年度)

交通環境の充実に対する達成状況は、「市内の移動に困らない市民割合」、「市外への移動に困らない市民割合」ともに横ばいであり、バス利用者の減少傾向や2年連続の大雪に見舞われるなど交通環境には厳しい状況であったが、冬期間の道路交通の確保に努めたことや、道路再整備等による交通環境の充実に努めたことで、市内外の移動の円滑化が維持されているものと推察されます。

施策事業コスト	22年度決算額	23年度決算額	24年度当初予算
トータルコスト(千円)	2,115,368	2,156,344	1,851,386
事業費(千円)	1,961,019	1,995,018	1,680,219
人件費(千円)	154,349	161,326	171,167

## 01 安全で快適な道路づくり

### 基本事業の目的

道路を整備・改修・維持することにより、安全で快適に通行できるようにします。また、放置自転車対策などを行うことにより人に優しい歩行者空間を確保します。

### 対象 (誰を対象とした指標か)

市民、道路利用者

### 意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

道路利用者が、安全で快適に通行できる交通環境を確保するとともに、人に優しい歩行者空間を確保する。

### 基本事業の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	後期目標値
安全で快適に移動できると感じる市民割合	%	71.1	73.9	-	69.1	↗
道路維持管理上の不具合件数	件	513	585	627	823	400

### 基本事業の達成状況 (23年度)

・市内の道路等は、全体的に老朽化が進行しているため、道路維持管理上の不具合件数も増加傾向にあります。  
・このことから、道路パトロール体制の強化を図りながら、きめ細かな巡回により道路維持に努めるとともに、必要に応じて再整備、改修を実施し、安全で快適に通行できる交通環境の確保に努めています。

基本事業コスト	22年度決算額	23年度決算額	24年度当初予算
トータルコスト(千円)	974,608	1,041,259	987,805
事業費(千円)	916,979	983,070	925,084
人件費(千円)	57,629	58,189	62,721

## 02 克雪による道路環境の整備

### 基本事業の目的

行政と市民、事業者が協働で除排雪に取り組むことにより冬期間の交通を確保し、円滑な冬の移動を確保します。

### 対象 (誰を対象とした指標か)

市民、道路利用者

### 意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

冬期間の交通の確保や、置雪問題など行政と市民が協働で快適な冬の生活を確保し、社会・経済活動を支援する。

### 基本事業の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	後期目標値
雪対策が充実していると思う市民割合	%	44.6	48.4	-	43.1	↗

### 基本事業の達成状況 (23年度)

成果指標としては減少しているが、これは今年の降雪量としては昨年に匹敵する量で、且つ1月は気温が低く、雪の量が減らない状況となったためと推察されるが、幹線道路の排雪を12月着手とし、バス路線、自治会排雪ダンブ通路を優先に確保し、市民と協働で実施する自治会排雪などにより、快適な冬の交通環境の確保に努めています。

基本事業コスト	22年度決算額	23年度決算額	24年度当初予算
トータルコスト(千円)	1,034,807	1,002,498	741,911
事業費(千円)	1,015,060	982,834	722,083
人件費(千円)	19,747	19,664	19,828

基本事業の目的

日常の移動交通手段を充実させることで、市民の移動を便利にします。

対象 (誰を対象とした指標か)

市民、既存バス事業者、新規参入交通事業者

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

住居系地域における移動交通手段への利便性の確保

基本事業の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	後期目標値
交通手段が充実していると思う市民割合	%	71.3	71.5	-	67.5	↗

基本事業の達成状況 (23年度)

交通手段が充実していると思う市民割合は横ばいの状況で、バス利用者の減少がバスの減便につながるという悪循環に陥っているが、H24年度から「公共交通検討会議」を設置し、利用者の立場にたった公共交通体系について検討を加え、成果指標の向上に取り組むこととしています。

基本事業コスト	22年度決算額	23年度決算額	24年度当初予算
トータルコスト(千円)	8,721	9,005	18,400
事業費(千円)	4,288	4,591	7,474
人件費(千円)	4,433	4,414	10,926